|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **目的** 1）MTDLPの使い方を理解する。  　-1：個別対応力を高める  　-2：マネジメント力を高める  　-3：継続的にMTDLPを実践する  2）自己の介入を客観的に振り返る。  3）生涯教育事例報告の参考とする。 **ファシリテーター要件** 1）MTDLP指導者  2）暫定ファシリテーター要件を満たす者  **※ファシリテーターの役割**  1）焦点を当てた生活行為が、対象者にどのような意味を持つか明確にする。  2）発表者が改善に向けた行動を起こせるように誘導する。  3）事例報告の骨格を明確にし、シートの記載方法を具体的に提案する。  4）タイムスケジュールを管理する。  5）対象者の課題から、組織・地域の課題まで抽出できるように促す。 | |  | | --- | | MTDLP事例発表進め方MTDLP実践者研修修了要件事例検討会| 旧スッテプ3　　2018.01.17. |  **今回のタイムスケジュール**（2017.03.17.）**13：00～13：15**  自己紹介・タイムスケジュールの確認・事例作成展開（案）についての説明 **13：15～14：15**1事例目**14：15～15：15**2事例目**15：15～15：30**　休憩**15：30～16：30**3事例目**16：30～**　　　　　　　　　振り返りとまとめ**事例検討の進め方（1事例60分）** 00：00：（1）抄録を中心に事例の概要（報告の目的）を説明：2分  ※どのような対象者に、どのような立場で、どのくらいの期間関わって、どのような結果に至ったのか、という点を押さえて述べる。（具体的な例文は次ページにあり）  00：02：（2）事例作成展開案　段階0-1説明：5分  00：07：（3）（2）の振り返り、質問：10分  00：17：（4）急性期/回復期/生活期の留意点実施の確認：3分  00：20：（5）事例作成展開案　段階2-7説明：10分  00：30：（6）5）の振り返り、質問、  アセスメントシートと抄録との整合性チェック：10分  00：40：（7）事例作成展開案　段階8-11説明：10分  00：50：（8）全体の振り返り：10分  01：00：　　　　終了 **発表者事前提出資料の確認** 1）生活行為向上マネジメントシート　　（用紙指定有）  2）事例の概略や経過をまとめた抄録 （用紙指定無）  ①事例のテーマ 　　　　　　　②基本情報（事例紹介）  ③作業療法評価 　　　　　　④作業療法計画  ⑤介入経過 　　　　　　　　　⑥結果 　　　　　　　⑦考察  3）事例作成展開案（2017.12.01.）（用紙指定有）  　　　「事例作成展開案」（以下、シート）は、広島県作業療法士会独自の取り組みです。　事例検討会では、発表者に事前に作成して頂いたシートを他参加者とファシリテーターと一緒に確認し、日本作業療法士協会の事例報告の合格を目指します。 **事例の概要（報告の目的）の具体例** 例1）○歳代前半女性のAさん。脳梗塞急性期より生活行為への不安を訴えていたA氏に対し，今後の具体的な目標設定を行うためMTDLPを用いた．その結果，人の手を借りずにセルフケア動作を行いたいという思いや，病前の役割や趣味活動を再開したいという具体的な生活行為の目標を確認できた．そして生活行為目標の設定と，活動・参加レベルの改善を意識した介入を行い，回復期リハへつなげられたため報告する．  例2）○歳代後半男性のAさん。脳梗塞を発症され急性期病院から地域包括ケア病棟を経て老人保健施設に入所された。自動車整備工場で長く勤められており、以前からの趣味は「将棋」であった。自宅への退所後には「地元の将棋の集まりに参加したい」また、家族からの「排泄はトイレで行えるようになってもらいたい」という思いに３ヶ月間取り組み、基本動作や活動参加の向上がみられ、退所後の生活目標を在宅ケアマネと共有できた一例について報告する。 |